

(社) 大阪大学工業会賞の設置と選考・授与

<設置の目的>

近年、新入生・在学生の工業会への入会率が徐々に低下しており、この状況を打開するため、工業会の活性化ワーキングで各種施策を検討し、先生方と意見交換をしてきた。その結果、入会率を上げるためには、工学研究科・工学部の教員、学生の皆さんに工業会を再認識していただき、その活動を理解し、支持・協力していただくことを目的として「工業会賞」を設けることにした。

<表彰の対象>

学部生を対象とした卒業時の各種表彰はあるが、博士前期課程修了生に対する表彰制度が無いため、前期修了予定の学生を対象に賞を授与することとした。

<表彰の趣旨>

学生に座学だけではなく、実学の重要性を認識してもらい、大学の研究教育活動が産業界に広く貢献していることを社会にアピールするため、修士論文の研究内容が基礎的・応用的側面を問わず、産業界へ貢献するポテンシャルを持ち、社会の発展に大きく貢献すると期待できるものに対して表彰することとした。

<選考の方法>

工業会会員による審査委員会で、提出された書類の審査により決定する。応募書類は前期課程での研究内容に関する概要を記したものと、工業会が出す課題について記述したものとする。

<表彰の内容>

賞状と副賞金一封（10万円）。受賞した修士論文の概要は工業会誌「テクノネット」に掲載し、広くその内容を知ってもらう。

<選考者の分野と人数>

次の4分野からそれぞれ1名程度表彰する

応用自然科学

（応用化学、生命先端工学、精密科学・応用物理学）

応用理工学

（マテリアル生産科学、知能・機能創成工学、機械工学）

地球総合工学

（地球総合工学、環境・エネルギー工学）

電子情報エネルギー工学（電気電子情報工学）

—20年度工業会賞の選考と授与—

選考

20年度の工業会賞は、修士論文と工業会が出した課題「チェンジ」に対する記述を、工業会副会長である藤井宏一（冶金 26）を委員長に仲津英治（機械 43）、中村潔人（精密 44）、隅田武男（金属材料 61）、工業会事務局局長曾根祥光（溶接 39）の5人で構成する選考委員会（3月11日開催）で審査し、以下の4名を表彰することとした。

本年の応募は、学生の準備期間が少なかった上に、知名度が低かったこともあり、2分野10件であった。

今後は工業会ホームページに早くから募集を掲載する等知名度を上げる。

- ・和泉 遊以 指導：阪上隆英准教授
「赤外線サーモグラフィによる道路橋鋼床版の疲労亀裂遠隔検出法開発に関する基礎的研究」
- ・有村 拓晃 指導：渡部平司教授
「異種元素添加によるHf系高誘電率ゲート絶縁膜の高性能化に関する研究」
- ・川原 類 指導：福崎英一郎教授
「近赤外を用いたメタボリックフィンガープリンティングによる緑茶製造における重要指標である蒸し度の推定モデルの構築」
- ・石村 良治 指導：澁谷陽二教授
「有限要素はりモデルを用いた脊柱筋骨格の歯科不正咬合による力学的影響」
上記4件の論文要旨を「テクノネット」10月号から各号1件ずつ掲載する。

授与

3月24日（火）14時から、馬場研究科長、谷口教育研究評議員、副研究科長・室長の先生方ご臨席の下に、工業会理事大川真一郎氏がプレゼンターとなり、授与式を執り行った。表彰のあと受賞者と馬場研究科長、大川理事をはじめご列席の先生方と記念撮影をし、第1回の工業会賞授与式を終わった。

